

図書館だより

2019春

No. 251

調布市立図書館

水木しげる氏

表紙絵

「ゲゲゲの森にも春が来た」

表紙絵：水木しげる

- | | |
|---------------------------|-----|
| ・ 特集：「知りたい」を応援します！ | 2～5 |
| ・ 平成30年度 子どもの本に親しむ会 | 6 |
| ・ 利用者懇談会報告 | 7 |
| ・ 郷土の歴史と伝承 | 8 |

※音声版をご希望の方は図書館へご連絡ください

特集

「知りたい」を応援します！



★ 図書館のレファレンスサービス

暮らしの中でふと疑問に思ったことや、ずっと気になっていたけど、どう調べたらいいかわからないことがある・・・そんな経験はありませんか？

図書館で行っている「レファレンスサービス」は、調査方法の案内や文献の提供など情報や情報源を探すお手伝いをするサービスです。調布市立図書館では、中央図書館はもとより、各分館でも、窓口や電話での問い合わせをお受けしています。

また、いろいろな方法で情報へのアクセス支援を行い、利用者の方々が必要な情報にたどり着けるようにしています。その主な内容やツールをご紹介します。

① 参考図書

事典類（辞書・字典など）や統計書などは、目的の資料を探す手がかりになったり、データの一覧が掲載されていたりなど、調べものに役立ちます。一般の図書や雑誌以外にも、こういった調べものに役立つ「参考図書」を収集し、ご案内なども行っています。

中央図書館では、主に5階の参考図書室に並べています。

② 電子情報

市内各図書館では、インターネットの閲覧と「調布デジコン」の閲覧ができます。（「調布デジコン」は調布市立図書館が作製しているオリジナルのデータベースです。調布市に関連するポスターや新聞記事、映画ポスター、「図書館だより」の検索・閲覧が可能です。使い方のご案内はp.4をご覧ください）。

また、中央図書館5階の参考図書室では、その他にオンラインデータベースや国立国会図書館のデジタル化資料がご利用いただけます（「歴史的音源」や「図書館向けデジタル化資料送信サービス」など）。

③ パスファインダー

「パスファインダー」とは、特定のテーマに関する資料を効率よく入手できるよう、調べ方の手順をまとめたものです。「地図の探し方」「健康・医療情報を探すには」等、テーマ別にまとめて配布するとともに、図書館ホームページでも公開しています。

④ レファレンス事例集

調査した事例の中から、今後も聞かれそうなこと、調布や映画など調布市独自の情報を含むものを中心に、調査記録を整理して公開しています。事例は図書館ホームページやぴゅー太（館内蔵書検索用パソコン）で閲覧できます。参考になった資料を紹介していますので、調べ学習にもご利用ください。

⑤ 関係機関との連携

調布市立図書館の蔵書で参考になる情報が見つからなかった場合、東京都立図書館や国立国会図書館等に調べてもらうこともあります。調査に関連して、資料の取寄せや複写申込み、資料を閲覧に行くための紹介状の発行等も行っています。

調べ物は職員みんなの力で

調査や相談には、受付けた職員一人だけではなく、調布市立図書館職員が一丸となってお答えします。すぐに資料が見つからない場合は、1週間程度の時間をいただいて、調査してからご連絡する場合もあります。中央図書館の5階レファレンスカウンター、各分館、電話でもお受けしています。

どうぞお気軽にお尋ねください！

中央図書館 参考図書室から

～過去にはこんな質問もありました～

着ぐるみ（ゆるキャラ）って
どうやって作るの？

調布市内にかつて「中央映画撮影所」
があったらしいんだけど、どこにあった
のかな？

昔、京王多摩川駅から調布の砂利を運搬するためにトロッコ
が走っていたと聞いたのですが本当ですか？写真も見てみ
たいです。

※これらの質問は、図書館ホームページ・ぴゅー太にて調査結果を見ることができます。



つかってみよう！調布デジコン

館内のぴゅー太で見られます。

① はじめに「キーボードで入力」を選んでください。

①



②

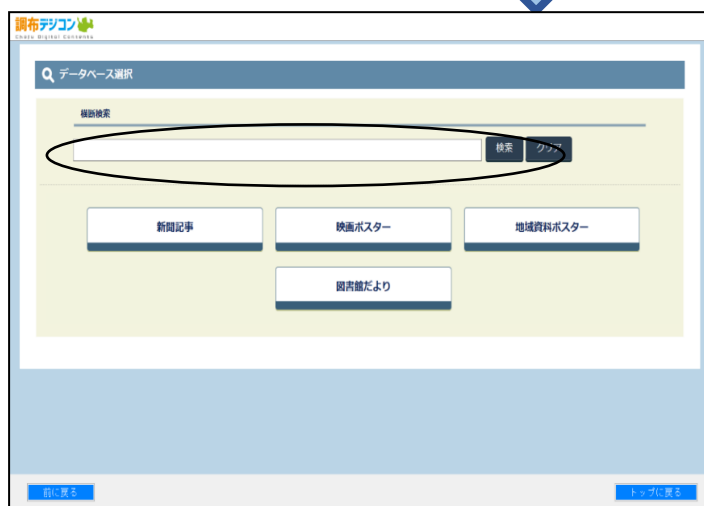


② 次の画面で「調布デジコン」を選んでください。

③ こちらの画面から検索ができます。調べたい言葉を入力して検索ボタンをおしてください。

※ ご覧になりたいカテゴリーが決まっているときは、カテゴリーを選んでから検索することもできます。

③



館内のぴゅー太からぜひ使ってみてください！（調布市内の全ての図書館で利用できます）

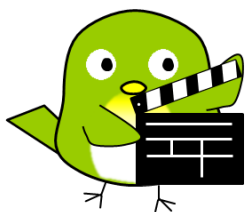
気になっていた調布の情報が載っている新聞記事、懐かしの映画ポスターなど新しい発見があるかもしれません。

※ 新聞記事と「図書館だより」は、中央図書館5階のデータベース利用端末で印刷ができます。

詳細は図書館へお問い合わせください。

※ 地域資料ポスターと映画ポスターは印刷することはできません。





映画資料室をご利用ください

調布市立図書館には公共図書館ではめずらしい、映画資料室があります。

これは、かつて「東洋のハリウッド」とよばれ、現在も映画関連企業が多くある「映画のまち調布」に由来します。映画資料室は「映画のまち調布」の足跡をたどる地域資料の収集・保存、さらに映画関連資料について幅広く収集する専門分野の資料室を目指し、平成7年に中央図書館5階の参考図書室内に開室されました。

現在も映画ファンから学生、映画関係の仕事をされている方々まで、幅広い層に利用されています。

映画のことを調べたい！—映画の参考図書のご紹介—

『日本映画作品辞典 戦前篇』日本映画史研究会（M778.0セ）5分冊

日本で戦前に製作・上映された作品を調べることができます。戦後編もあります。

『映画年鑑』キネマ旬報社他（M778.0エ）

映画に関する統計や、映画関係団体の記録などが収録されています。

『映画の賞事典』日外アソシエーツ株式会社（M778.0ニ）

国内外で開催される映画賞、映画祭の情報などが掲載されています。

この他にも映画に関連する参考資料がたくさんあります。映画資料室でご利用いただけます。

ご存知ですか？地域資料

調布市立図書館は「調布に関する唯一の専門図書館」として、調布市に関する資料を中心に東京や多摩地域関係の基本的な資料も含め、積極的な資料収集を行っています。

中央図書館5階参考図書室内と分館に地域資料コーナーがあります。

図書館の資料といえば、本や雑誌が思い浮かびますが、地域資料は実に多種多様です。各学校の学校だよりや新聞の折り込みチラシ、市内イベントのポスターや電話帳なども収集しています。

担当オススメ！ 調べものに使える地域資料

調布について調べるならまずこれ！

『調布市史』上・中・下・民俗編 調布市市史編集委員会（T01 210.1チ）

調布のリアルがわかる！

『市報ちょうふ 縮刷版』行政経営部広報課（T01 318.5シ）

多摩地域の地理歴史といえば！

『多摩のあゆみ』たましん地域文化財団（T03 210.0タ）



（ ）の数字は本のラベルの番号です

平成30年度 子どもの本に親しむ会

「お話の小路から」 講師:小風 さち氏

平成30年11月15日(木)に、「わにわに」シリーズや『こぶたのピクルス』で子どもたちに人気を博している児童文学作家・絵本作家の小風さちさんをお招きして、絵本や児童文学を書くという仕事についてお話いただきました。講演の内容を一部紹介いたします。

● お話ができるとき、糸が下りてくる

わにわにのお話はどうして生まれたか。

お話ができるときは、ぽんと思いつくのではなく、いろいろな糸みたいなものが下りてくるようで、それは日常生活と結びついているように思う。日常で見たり聞いたり感じたりしていることが、さっと結びついて下りてきてくれる。ずいぶん前に、練馬区の石神井公園にワニが出て大騒ぎになった時、知人と一緒にワニ探しにでかけた。猟犬も必要だと思ったので、飼い犬をつれていった。ワニは見られなかったが、テレビ



で見かけた熱川バナナワニ園に出かけた。そこで初めて本物のワニをいろいろ見て、なんてすごい、なんてきれいな動物なのだろうと思った。わにわにはそのミシシッピワニがモデルになっている。アカワニのモデルはメガネカイマン。職員が、メガネカイマンの赤ちゃんはレンガ色だと実物を見せてくれた。さて石神井公園のワニは誤報だったのかなと思った時に、「ずり づづづ」という廊下をはってくる音が聞こえてきた。「きゅるり きゅるり」という蛇口をひねる音も聞こえた。こういうとき、お話は自ら生まれてこようとし、自分はただの媒体になったように感じる。これは、物書きとして自分が非常に幸せだと感じる時だ。

● 作家を鍛えてきたのは、子どもたちと読みきかせをする人々

作家を鍛えてきたのは、ひとつは読者である子どもたち。子どもというのは、案外自分たちの絵本に必要なものが何かちゃんとわかっている。そのため、言葉はちゃんと絵を語り、絵はちゃんと言葉を描いていなければならない。もうひとつはその子どもたちに絵本を読んであげた人々。直に子どもの中に入っていく言葉を、体をはって丁寧につむぐ。両方がいないと作家の仕事は何一つ完結しない。

参加者や私たち図書館員、すべての子どもの本が好きな人たちの心に響くすてきなお話でした。

小風 さち (こかぜ さち) 氏



1955年東京生まれ。1994年に、『ゆびぬき小路の秘密』(福音館書店)で野間児童文芸新人賞受賞。絵本の著書に『わにわにのおふろ』などの「わにわに」シリーズ、『あむ』(どちらも福音館書店)など。児童書の翻訳も手がけている。



利用者懇談会報告



平成30年11月15日（木）と11月22日（木）に、調布市立図書館利用者懇談会を開催しました。第1回目は文化会館たづくり、第2回目は国領分館を会場に、いずれも午後2時からの開催となりました。各回とも「図書館の棚に本が並ぶまで」をテーマに2部構成で実施しました。

第1部は、本を選ぶところから、注文、納品・検品、本の受入れ、本の整理、本を棚に並べる、新刊本のお知らせをるところまでを紹介しました。

第2部は、参加者の図書館活用方法や図書館へのご要望・ご質問などを含めた意見交換を行いました。

第1回目の意見交換では、ご要望・ご意見も上がりましたが、それ以上に「歩いて通えるところに図書館があるというのはとても幸せなことだと思った」「調べたいことを相談すると厚い本の中の調べたい箇所、しおりが入っていて、そこを見るようにと案内してもらえる。きめ細かい対応に感謝している」「朝に予約をかけた本が午後には届いているという迅速な対応を有難いと思っている」といった日頃の図書館サービスに対する想いを多く頂戴しました。

第2回目では、「宅配ボランティア発足時から関わっている。年を取ってきたができるだけ続けたい」「昔の地図を見て懐かしかった」「児童館では、図書館から乳幼児の会のための絵本を団体貸出してもらい、助かっている。またリサイクル資料も活用している」「読書会も本を揃えるなど図書館のサポートがあってこそ継続できていると思う」などの感想や、「予約の本の到着がとても速いが、どのようなシステムになっているのか」といった質問が寄せられました。また、「図書館に来ない・読書をしない子どもたちへ、どう関わりサポートしていくか」について意見交換が行われました。「国領分館は全分館の中でも利用が最多である」という職員の説明に、驚かれる姿もありました。

普段から国領分館をよく利用してくださっている方々に集まっていただき、地域に密着した図書館運営の重要性を職員一同改めて痛感しました。

各回とも活発に意見を出していただき、皆様の声を直接伺うことができた貴重な会になりました。詳しい内容は、図書館のホームページで公開しています。

今年度の利用者懇談会でいただきました様々なご意見などを活かし、より良い図書館になるよう目指してまいります。



▲第1回目



▲第2回目

棒打ち唄が聞こえた時代

関 口 宣 明 のぶ あき

調布では、昭和 30 年代まで麦づくりが盛んでした。年の暮れから 2 月にかけて、麦をしっかりと大地に根を張らせる「麦ふみ」が行われ、その姿は冬の風物詩でした。

麦は夏に収穫し、秋に脱穀して、大切な食糧となりました。

1. 調布の棒打ち唄

昭和 12、3 年ごろまでは、毎年暑い盛りになると、農家の庭先から、麦を脱穀するときの「パタン、パタン」という音とともに、「棒打ち唄」が聞こえてきました。下は上石原地区に伝えられた唄の一つです。

声さえたてば唄います 主の声 春日
の山の鹿の声 力を入れてお打ちあれ
くるり棒が折れるか 大地が割れるか

（『東京の民謡』平成 11 年）より

麦は実がかたく、力をこめて打たないと思うように殻をとることができません。そこでこのような唄を唄いながら、皆で力を合わせて作業をしました。10 人前後の人が向かい合って、交互に棒を打ったので、一定のリズムをたもち、能率をおとさないようにすることも必要でした。（挿絵参照）



からさおによる脱穀の図 ※『農業全書』元禄 10（1697）年

唄にでてくる「くるり棒」は、古くは「からさお」とよばれました。今から 1000 年以上も前に編まれた『和名抄』という百科辞典にでてくる農具です。竿をにぎり、「くるり」という回転棒を地面に打ちつけて、乾燥させた麦や、雑穀の穂などを強く打って実をとるのです。長時間におよぶ作業は、麦の殻についた「ノゲ」というかたい毛

が飛び散ります。体にチクチク刺さるので、作業をする人は大変だったようです。

2. 農家の食生活

脱穀に手間のかかる麦づくりが続けられてきたのも、昭和初期までは、庶民の主食が麦だったからです。少ない水田からとれる米は、江戸時代から「年貢」として納めたり、換金作物にしたりしていました。そこで、ふだんは、粒のかたい大麦を丸のまま炊いた「バクメシ」や、石臼でひき割って、多少の米を入れた「ひきわり飯」が主食となっていました。このような食生活は、米づくりよりも麦づくりの歴史が長かった関東地方に広く見られます。それにともない「棒打ち唄」もこの地方に豊富に伝承されてきました。

3. 消えゆく棒打ち唄

中央本線が調布の付近を通った明治 44（1911）年ごろには深大寺地区に農機具店ができました。愛知県からは改良式臼摺り機などが仕入れられ、大正時代になると、足踏み脱穀機も売られ始めました。この脱穀機は、歯車の回る音から「ガーゴン」とよばれ、棒打ち仕事はそれに代わっていき村人の働き方がかわってくると、仕事唄も自然と絶えていきました。しかし、調布周辺に伝わる

「棒（麦）打ち唄」には、人情や、天候の変化の予測（雨がふってきたら作業を中止しなければなりません）、茶菓子の楽しみなど、過去からの生活経験が多く唄いこまれています。

郷土に伝えられた仕事唄は、苦労をともにして地域をささえた人々の結びつきと、暮らしの歴史を物語っているといえるでしょう。

参考文献：宮内 仁『日本の仕事唄 2』

刊行物番号

2018-188

図書館だより 第 251 号

平成 31 年 3 月 25 日発行 [市内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町 2-33-1

TEL 042-441-6181

<http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>